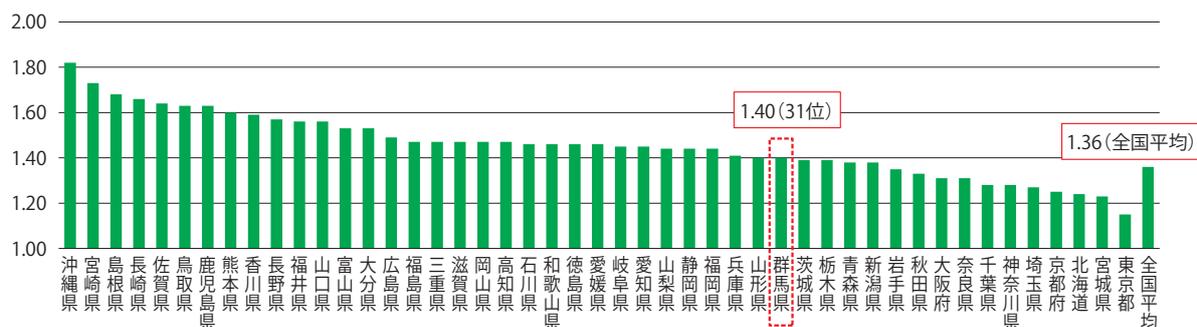


群馬県の合計特殊出生率と出生数の推移

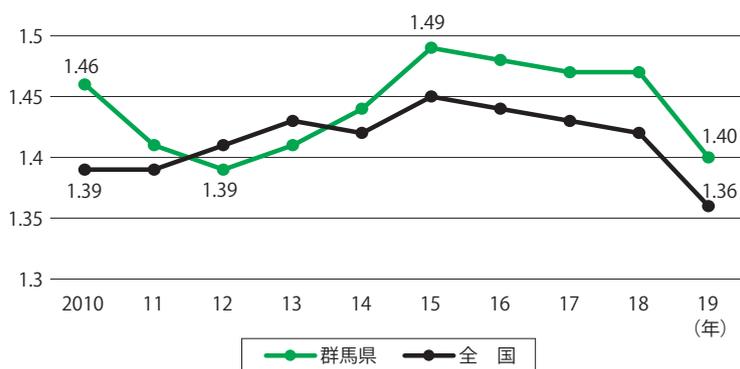
- 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」および厚生労働省「人口動態統計」によれば、2019年の群馬県の合計特殊出生率は1.40となった（図表1）。都道府県別に見ると、群馬県は31位となっている。
- 地域ごとに同じような傾向にあり、九州地方は高い一方で、東北地方、人口の多い東京都や神奈川県、千葉県、埼玉県といった地域は、低い結果となっている。
- 本県の過去10年間の合計特殊出生率の推移をみると、もっとも低かった12年を境に一旦は上昇に転じたものの、15年以降は再び緩やかな低下傾向にあり、19年は過去2番目に低い数値となった（図表2）。近年は全国とほぼ同様の動きとなっている。
- また、出生数は10年間で減少傾向にある（図表3）。直近の19年は前年比がマイナス7.9%となっており、合計特殊出生率の低下と併せて軽視してはならない状況にあると考えられる。こうした現状を受け群馬県は、若者や学生に対し、結婚に対するイメージの向上や仕事と家庭の両立体験の提供といった将来を見据えたライフデザイン構築の機会を増加させる取り組みなどを実施しており、今後の出生数の増加が期待される。

図表1 都道府県別の合計特殊出生率（2019年）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」および厚生労働省「人口動態統計」

図表2 合計特殊出生率の推移（群馬県・全国）



図表3 群馬県の出生数と前年比

年	出生数 (人)	前年比 (%)
2010	16,023	—
11	15,637	▲2.4
12	14,914	▲4.6
13	14,732	▲1.2
14	14,522	▲1.4
15	14,256	▲1.8
16	13,661	▲4.2
17	13,280	▲2.8
18	12,922	▲2.7
19	11,901	▲7.9

【一口メモ】

合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

(担当：井草祐美)